

令和6年度鳥獣被害対策支援活動報告会

かながわ鳥獣被害対策支援センター

令和 6 年度鳥獣被害対策支援活動報告会

目 次

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

1 地域ぐるみの鳥獣被害対策支援の内容について.....	1
2 ツキノワグマ関連業務について.....	2
3 クリハラリス対策事業について.....	3
参考資料.....	4

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

(1) 地域ぐるみの鳥獣被害対策支援について

① 鳥獣対策とは

・集落環境整備

隠れ家となるヤブの刈り払い

エサとなる放棄果樹等の除去

・被害防護対策

侵入を防ぐ防護柵

追い払い

・鳥獣の捕獲

加害個体の捕獲

対策の三本柱

対策の三本柱を地域で取り組む

② 地域ぐるみ対策の課題

- ・行政主体から地域主体へ変換すること
- ・取り組みが単年度や単発で終わりにせず、継続すること

③ そのためには

- ・関係者同士の顔と顔の繋がりを持つこと
- ・対話を重ねること

互いに信頼関係が築けなければうまく話も進まないし、継続もできない。

④ かながわ鳥獣被害対策支援センターとの繋がり

関係機関同士の良い関係が良い結果に繋がると思います。

一緒に現場に行きますのでご相談ください。



I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

(2) ツキノワグマ関連業務について

① 目的

市町村が行う対策を支援するため、出没現場での被害対策、放獣等対応、自動撮影カメラでクマの出没を監視した。また、錯誤捕獲防止機能付きくくりわなの実証実験を行い、性能の調査を行った。

② 実施内容と結果

ア 出没現場での対応

i) 実施内容

目撃や痕跡があった箇所での防除対策の実施、執着があった施設での侵入対策及び捕獲、放獣作業の実施

ii) 結果

関係機関と連携して対策を行えた。

イ センサーカメラ監視業務

i) 実施内容

自動撮影カメラでの撮影内容を市町村に情報提供。出没を特に迅速に把握したい場所では、通信機能付き自動撮影カメラを活用した。映像から個体識別を実施し、経年の状況の把握を試みた。

ii) 結果

今年度、監視地域での撮影頻度は例年より少なかった。要因の一つとして、放棄カキが早い時期に落果したことによると思われた。

ウ 錯誤捕獲防止機能付きくくりわなの実証実験

i) 実施内容

近年くくりわなによるツキノワグマの錯誤捕獲が問題となっている現状を踏まえて、錯誤捕獲防止機能を有するくくりわなを使用し、捕獲目的鳥獣の捕獲効率を維持できるかを調査した。

ii) 結果

昨年度、近似地域で行った捕獲実績と同程度の捕獲効率であった。問題点としてはオリモ式やファーレ旭式に比べくくり位置が低いため、わなから外れる可能性があることが挙げられた。

③ 今後の予定

引き続き、市町村と連携しての現場対策、自動撮影カメラによる出没監視をするともに、防除に有効な技術の試行を実施していく。

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

(3) クリハラリス対策事業について

① クリハラリス問題の現状

特定外来生物のクリハラリスの生息域が拡大し、農作物への被害や生態系へ影響を及ぼすおそれあり。ダニやノミを持っている個体もいると問題視。

② 実施内容と結果

ア 捕獲事業

i) 実施内容

県内分布最前線の一つである大和市の緑地において委託、直営にて捕獲を実施した。

ii) 結果

捕獲を実施した緑地では、わな設置箇所の個体は捕獲しきった可能性が高い。

しかし、別の緑地から侵入してきたと思われる個体の存在が確認された。

一部緑地では地域の方によるわなの見回りを実施し、地域ぐるみの防除の兆しが見えた。

イ AIによる音声識別調査

i) 実施内容

ボイスレコーダーで音声を収集し、AIによる音声解析で生息の有無を判定。

ii) 結果

	目的	結果
小田原市	情報があつた場所で生息しているか確認できるか	生息を確認
逗子市	多様な生物がいる中で正確に判定できるか	生息を確認。
茅ヶ崎市	分布拡大が懸念される砂防林で調査	生息を確認できず。

・セミや虫、地域特有の鳥の鳴き声など、学習していない音声に対して「リス」と誤判定してしまうことが多い。

→設定で弾くよう修正できる。

・レコーダーの設置する位置や環境により判定の質が大きく変わることが分かった。

③ 今後について

ア 捕獲事業

国の交付金を活用し、分布最前線での捕獲は継続する。

イ 調査事業

AIによる音声識別調査は突発的な情報に対して運用できるよう調整する。

また、別途クリハラリスによる農作物の食痕データを収集する委託を実施し、取りまとめて周知することにより、農業被害を報告してもらうための一助としてもらう。

参考資料

《かながわ鳥獣被害対策支援センターの取組》

○地域別、内容別の対応件数

令和7年3月31日現在

【地域別】

★合計★ 418

横須賀三浦	41
県央	107
湘南	160
県西	46
横浜川崎	32
その他	32

【内容別】

★合計★ 418

問合せ照会回答	39
現場での技術指導アドバイス	120※
打合せ調整	46
会議等参加	30
講師（派遣分）	25
野生動物捕獲対応	24
現地調査	106
クマ調査	23
その他	5

※当課主催研修等7件は現場での技術指導アドバイスに計上